

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



2001年12月、雲崗の石窟はユネスコの世界遺産に登録された(撮影: 橋本紘二)

Contents

- 緑の地球ネットワーク発足10周年にあたって P 2
- 10年の苦勞の道は一生忘れられない P 3
- 緑の地球ネットワーク10年間のあゆみ P 4
- 日中環境協力について P 6

2002.1

83

緑の地球ネットワーク発足10周年にあたって

立花 吉茂 (GEN代表、花園大学客員教授)

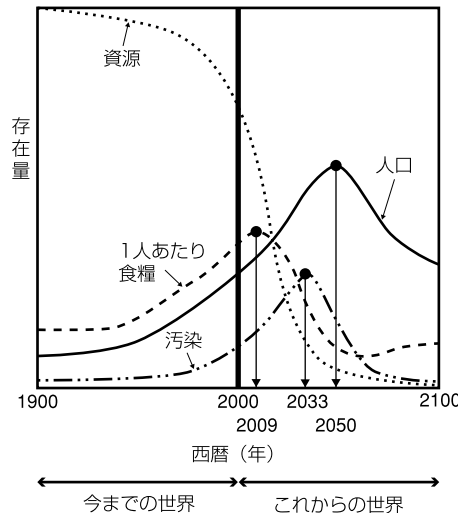
10年一昔

明けましておめでとうございます。21世紀も本格的に始動しはじめました。われわれの活動もはや10年の歳月を経ています。その間、いろいろありましたが、やはり最大の話題は山西省大同地域の緑化活動でしょう。中国側と日本側の協力態勢、緑化のスケジュールなどの仕事等、それは大きく進展しましたが、いったいどれだけの緑を増やすことができたのか、樹木のない大同の大地を眺めるたびに前途多難を思い知らされます。われわれはベストをつくしているつもりだけれど、世の中の変わりよりの早さに追いつけないのか、人事の尽くし方がまだ足りないのか、緑化とはこんなものなのか、新年を迎えるたびに考え込んでしまいます。

10年一昔とはよく言ったもの、10年前には考えられないようなことが起こっています。いやらしいテロ戦争です。宣戦布告をして戦うような戦争はもう考えられないような世界の状況です。どんな形でも戦争は破壊ですからよくないのはもちろんですが、テロのような陰險な争いは地球の寿命を縮めることにつながります。いつ起こるかわからないことにむだな働きをせねばならないからです。われわれは地球と人類のためにあい集い、緑化活動をしているのです。思いがけないことが起こって地球の寿命を短縮されると、遠い未来のための活動は意味をなさなくなってしまいかもしれません。しかし、こんな風に考えると他のことでも同じように地球の未来は近いうちにたいへんなことになりそうです。たとえば、資源節約のためにリサイクルをやるとかえって地球の寿命短縮につながる、というデータがあります。環境工学の専門家が書いた「リサイクルしてはいけない」という本です。狭い地域レベルで考えるとリサイクルは良いことなのに、地球レベルで考えると「いけない」ことになってしまうのです。これ

からの地球が大変だ、というメドウズ博士の未来予測図を見てみなさん、どう思いますか？

メドウズ博士の未来予測



1人当たりの食糧がピークを迎えるのが2009年、地球の汚染がピークになるのが2033年、そして増え続けていた人口が急激に減り始めるのが50年後。2050年には食糧生産は一番多い時期の6分の1程度、資源は実に20分の1程度に減る。その結果、来世紀には世界人口が約60億人減ると計算される。この理由は平均寿命の低下とされているが、約30億人が餓死すると計算される。

武田邦彦著：「リサイクルしてはいけない」(青春出版社、2000年2月5日)より引用

やるしかない

10年一昔、10年1日の如く、と10年は長いという表現が多いのですが、緑化の仕事は10の二乗です。そう考えたらあわてることはないのですが、人口増加、経済発展は地球の寿命の短縮につながるのですから大変です。樹木の生長の遅いこと、遅いこと……。

昨年の6月にわれわれの会員総会に

祝賀の挨拶状を送ってくれた大同市青年連合会主席の祁学峰氏が次のように言っています。「緑化活動10周年を記念するとき、この活動がこれから歩む道を考えないわけには参りません。貴重な経験を積み重ねたとはいえ、これからの道程はあまりにも長く、新しい問題に直面するでしょう。この克服にはより多くの人の力が必要です。それがあって初めてこの事業が健全にかつ持続的に発展してゆくことが可能となるのです」と述べています。もっと大々的に何十万、いや何百万の人の力で緑化推進を考えておられるのでしょうか。「さすが大人」と思いました。年末になってこの祁学峰氏が配置換えになる、というショッキングなニュースが入ってきました。高見さんに聞くと、南郊区の党の副書記に昇格されたとのこと、それなら遠くへ行ってしまうわけではないのでやや安心というところですが、今度の書記がどんな方なのか非常に気掛かりです。

私のような心配性の人間は遠い未来のことばかり心配してやる気を失いますが、今まさに「やるしかない」時にさしかかっているのだと思います。

事務所を移転しました

昨年暮れ、緑の地球ネットワークの事務所を移転しました。最寄り駅は以前と同じJR環状線/地下鉄中央線「弁天町」駅で、駅から徒歩約10分です。以前の事務所より明るく、広くなり、資料の閲覧等も可能になりました。事務作業等のボランティアも歓迎します。事前連絡のうえ、お立ち寄りください。

【住所】〒552-0012 大阪市港区市岡1-4-24 住宅情報ビル501号
TEL. 06-6576-6181 FAX. 06-6576-6182

JR「弁天町」駅南出口、地下鉄「弁天町」駅6号出口から国道43号線を南へ約400m。みなと通り交差点を西へ約120m。大阪港郵便局の東側です。



10年の苦勞の道は一生忘れられない

祁学峰（南郊区副書記、前大同市青年連合会主席）

1994年からGENのカウンターパート責任者として誠実かつ素晴らしい仕事をしてこられた祁学峰さんが、大同市青年連合会を離れて大同市南郊区の共産党副書記に就任されました。得難いパートナーであった彼のこれまでの献身に感謝するとともに、新しく困難な仕事に取り組む祁学峰さんにエールを送りたいと思います。

高見邦雄さんたちが黄土高原緑化活動を始めてちょうど10年ですが、それとともに「緑の地球」も10年を歩んできました。私も何度か大同地区の緑化活動の状況と自分自身の見方・考え方などを書いてきました。浅薄なものといえども、この刊行物へのわずかな貢献になったでしょう。

今回私は「緑の地球」創刊10周年のために筆を執っています。この機会に、皆さんにお話したい事がたくさんあります。私は既に共産主義青年団の職場を離れたのに、日本の友人の皆さん一人ひとりにお別れの挨拶ができませんから、この場を借りて惜別の情を表すことにしましょう。

私が高見さんと知りあったのは1994年春で、その時から長い緑化の道程が始まりました。私たちは一緒に牛車に乗って広霊果苑西庄村に行きました。水がなく、極度に貧しい村でしたが、その後私たちの努力のもとに井戸が掘られ、各家庭に水道が引かれました。テレビ朝日「素敵な宇宙船地球号」で放映されたのが、この村のことです。

私たちはまた渾源果沙圪坨鎮照壁村に行きました。小学校の校舎はボロボロでしたが、子どもたちはとても天真爛漫で、この子たちに何かをしたいという気にさせられました。その後、ここに小学校付属果樹園を作り、「希望果樹園」と名付けましたが、これは緑化活動の重要な一環となりました。

私たちは一緒に大同県徐町郷に行き、3つの貧しい村のために500haの果樹園を建設しましたが、いろいろな原因で大部分は枯れてしまいました。これは私たちの最初の失敗でしたが、私はこの失敗をいつも思い起こし、最もいい先生にし、その後の緑化活動の発展のために生かしてきました。

私たちは一緒に東京へ行き、経団連

が主催した緑化フォーラムで報告をし、多くの人々に黄土高原緑化活動の状況を話しました。その後、私たちの活動をNHKテレビが取り上げてくれたほか、日本の外務省、郵政省（総務省）、環境省などの政府機関や、ジャスコ、サントリーなどの労働組合と企業の支持をうるようになりました。

私たちは一緒に山を歩き、川を渡り、農村を歩き回り、そして酒を飲んで語り合い、多くの構想がその中から生まれました。いまでは、地球環境センターが一定の規模に達し、1万ムー（約670ha）の林場（カササギの森）に着手し、霊丘植物園が発展しはじめ……。10年間に歩んだ道は、ありありと眼に焼き付いていて、終生忘れることはないでしょう。

まず、友情を忘れることができません。この10年来、私は多くの日本の友人と深い友誼を結びました。立花吉茂さん、遠田宏さん、竹中隆さん、前川宏さん、太田さん、東川さん……。みな善良かつ情熱的で、有能な人でした。このような人たちと交わりあえたのは、たいへん幸せなことです。

次に、事業を忘れることができません。黄土高原の緑化は、長期に持続する必要がある1つの事業です。この長い過程には、苦勞と困難があり、希望と楽しみもあります。自分の気に入った事を一生の事業として持続していけるなら、その人はきっと特筆に値し、尊敬に値する人でしょう。高見さんはまさにそのような1人です。彼は中国政府から2001年度国家友誼賞を受けましたが、私は第一番に拍手喝采し、この受賞の意味を深く理解します。

第3には、失敗を忘れません。失敗は最良の教師です。この10年間に、私たちは一言で言い尽くせない多くの失敗をしました。しかし、失敗にはい

い面もあります。失敗は人を反省させ、深く考えさせ、最も速く成熟させることができます。失敗は我々の成功への道を照らし出しました。この10年を振り返るとき、失敗を失敗と認めることが最も良い経験になったと思います。

私が今まで黄土高原緑化活動の忠実な組織者であったとするならば、これからは忠実な支持者となるでしょう。2001年10月13日、私は共産主義青年団書記の地位を離れ、大同市南郊区の党の副書記として、農業と農村の仕事を担当することになりました。

最近しばらくは、高山鎮という地区で調査をしていました。高見さんと共に緑化活動に取り組んだときと同じように力をいれています。100平方kmほどの四角い地域ですが、大小の炭鉱が100以上あり、資源は日に日に減少し、環境問題は日々大きくなり、飲み水がなく、耕作できる土地がなく、緑はまったくありません。村はどこも石炭採掘で生活を維持しています。

私が高見さんと一緒に緑化を始めた時も水が最初の問題でした。新しい持ち場につき、またもや水の問題（水のない山間地域の農民のために飲み水の問題を解決すること）にぶつかりました。私はまだ答えを得ていませんが、初めて苑西庄を訪れた時と同じような衝動を感じています。

この緑化活動に参加した10年の経験が、これからの人生でいかに大きな助けになるか、最近、私は身をもって感じています。それは、人としていかに生きるべきか（重要なのは信念を持つことです）、いかに仕事をすべきか（カギは真剣であることです）、いかに役職につくか（貴いことは官僚的でないことです）を教えられました。そういう意味で私は「10年の苦勞の道は生涯忘れることはない」をこの短文の標題にしました。これは、私が心から感じた感想、体得、まとめです。

2001年12月25日



霊丘自然植物園の役割は大きい

9月 大同事務所直轄の林場『カササギの森』開始。日本から1口5万円の寄付を募り、植栽・管理費にあてる。
11月 石弘之さん講演会『21世紀の地球環境問題』を開催。
2001年3月 橋本紘二さん写真集『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』発売。
4月 京都で橋本紘二さん写真展『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』開催。以降、名古屋（7月～8月）大阪（10月～11月）でも開催した。
6月 東京でGEN創立10周年記念シンポジウム開催。
助成・寄付・活動協力をいただいた外部団体に関しては、スペースの都合でごく一部しかふれていません。このコーナーで紹介できなかった方々にも、心から感謝申し上げます。

イ』第1期終了。同時に第2期開始。
1996年3月 KDDの協力によるグリーンアースダイヤル開始。登録者が支払った国際電話料金の一部がGENに寄付されるしくみで、98年3月に終了。
3月 大同市南郊区平旺村で地球環境林センターが始動。
4月 全ジャスコ労働組合が第1回ワーキングツアーを派遣。他の労組の同様の活動のさきがけとなった。
5月 GEN関東ランチ始動。
8月 大同での緑化協力（地球環境林センター）に、外務省草の根無償資金協力からはじめての助成。
10月 橋本紘二さんの写真による絵ハガキ「中国・黄土高原」春と夏を作成。
1997年4月 地球環境林センターで小川眞さんの指導により菌根菌を用いた育苗実験を開始。
7月 ビデオ第2弾『森よ、よみがえれ！』が完成。
9月 テレビ朝日「素敵な宇宙船地球号」でGENの活動を放映。
8月～9月 大同県遇駕山の国家プロジェクトでマツ枯れがあり、日本から専門家調査団を派遣。
1998年1月 大同市天鎮県に隣接した河北省張家口市北部で地震発生。倒壊した小学校の再建に協力。
3月～4月 GENのツアーではじめて農村でホームステイをおこなう。
7月 広霊県苑西庄村の井戸が完成。この年には霊丘県の石瓮村でも井戸掘

りに協力した。
8月 霊丘自然植物園始動。
10月～11月 緑色地球ネットワーク10名が来日。大阪、兵庫、京都、滋賀、東京の農林業施設、植物園、自然林、関係機関を訪問。
12月 ナショナルトラスト『チコロナイ』第2期終了。同時に第3期開始。
1993年2月 仙台で橋本紘二さん写真展を開催。
4月 関東ランチの“緑化NGOリーダー養成講座”開始（1年間）
6月 大阪府から特定非営利活動法人の認証を得る。同時に、ナショナルトラストチコロナイが分離独立。
9月 全ジャスコ労組が建設に協力した霊丘県南庄村の小学校新校舎が完成。
9月 絵ハガキ「中国・黄土高原」に秋・冬編、緑化協力編が加わる。
10月 中国黄土高原緑化支援コンサート“黄河の響き”を開催。
10月～11月 緑色地球ネットワーク5名が来日。技術者が中心で、植物園や自然林などを中心に訪問、大きな成果。
11月 大同市北部で地震発生。早魃と重なり、局地的に大きな被害を出す。倒壊した学校再建と、新しい種イモや種子提供のための募金をおこなう。
2000年2月 東京で橋本紘二さん写真展『浸食大地～中国・黄土高原』開催。
3月 地球環境林センターの拡大。
8月 専門家調査団を派遣して大同市南部の自然林の植生調査をおこなう。

2002 春の黄土高原ワーキングツアーのご案内

来春のワーキングツアー参加者を募集中です。いつもより少し時期が早いのでまだ寒いかもしれませんが、今春は大同市最南部の霊丘自然植物園をまず訪れます。育苗してきた苗木のなかにも、もう植えられるのを待っているものがあるでしょう。もちろん、村での作業、交流やカササギの森での作業も予定しています。黄土高原の人たちといっしょに木を植えませんか。関心のある方は早めにお問い合わせを！

日程：2002年3月24日（日）～31日（日）

費用：一般＝17万円、学生＝16万円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費ふくむ）中国国際航空利用 関西国際空港発着 成田空港発着便利用の場合、2万円（航空運賃の差額）高くなります。
定員：30人
申込み締切り：2月24日（定員に達し次第締め切ります）

【スケジュール案】

3月24日 午後出発。夕刻北京着。夜行列車で大同へ。

25日 朝大同着。三嶺村、懸空寺をへて霊丘県へ。
26日 霊丘自然植物園で活動。
27日 小学校付属果樹園で作業。農家でホームステイ。
28日 大同県“カササギの森”で作業。
29日 雲崗の石窟、万人坑見学。地球環境林センターで活動。夜行列車で北京へ。
30日 朝北京着。終日、北京観光（自由行動可）北京泊。
31日 朝北京発。午後帰着。

日中環境協力について ～ODAの視点から～

明日香 壽川 (東北大学東北アジア研究センター助教授)

「なぜ中国へ？」GENのようなNGOの小規模な協力に対しても、よく投げかけられる疑問です。2001年夏の黄土高原ワーキングツアーに参加された明日香壽川さんに、ODAというより大きな切り口で、日中環境協力の意義を論じていただきました。

日本政府は、最近になって、中国に対する政府開発援助（ODA）を、沿海部のインフラ整備から、内陸部の民生向上や環境対策に移すことを決めた。来年度のODA予算も全体の一割削減を決めている。

この「対中ODAの環境シフト」という政策決定の背景の一端には、国民一般にあるODAや環境問題に関する誤解や認識不足、対中脅威感、そして嫌中感があるのではないだろうか。そして「環境保全プロジェクトは、他の種類の援助プロジェクトよりはまだまだ」という認識のもとでの消去法的選択の結果という側面を持っているように思われる。

確かに中国は、先進諸国では数世代もかかった過程を、わずか一世代に圧縮したような工業化（「圧縮型工業化」）を進めている。その帰結として、大気や水の汚染、水不足、森林喪失、土壌汚染、土壌流出、ゴミの大量発生、酸性雨被害などの多くの環境問題を抱えている。また、中国に限らず、アジアの国々がエネルギーや資源の消費をさらに拡大していった場合の地球環境に対する影響は大きい。貧困問題と環境問題も切り離せない。

しかし日本には、「日本はODA資金を抛出しすぎている。特に最近では経済発展が著しく、それほど友好的でもない中国に対するODAは減らすべきだ。けれども中国からの大気汚染物質の飛来が酸性雨となって日本にかなり悪影

響を及ぼしているらしい。だから大気汚染対策などに資する環境ODAであれば仕方がない」という誤解を含む認識が、世間一般にも政策決定者の間にもあるように思われる。

そもそも環境保全プロジェクトとその他の援助プロジェクトとの線引きや優先順位付けは非常に難しい。また、一般的な日本人が想像できないような生活をしている貧困層が中国には数億人のレベルで存在している。さらに、日本における生態系の酸性雨被害に関する定量的な評価は未確定であり、日本と中国の場合、大気汚染物質の越境汚染に関する国家間の加害・被害関係の強さは、越境酸性雨問題が深刻となった欧州の場合と比べればかなり小さい。そして、日本政府は数年前からODAの環境保全シフトをすでに行っており、昨年度の対中ODA案件の約8割はすでに環境保全プロジェクトとなっている。すなわち、政府の新たな方針は現状の追認にすぎない。

ODAに対する日中間の認識のギャップも大きい。建前は別として、中国にとって日本の援助と戦後賠償問題とは切り離せない。一方、多くの日本人は、援助と戦後賠償問題は全く別であり、かつ対中ODAの大部分が無償資金供与だと考えているように思われる。しかし実際には、対中ODAは借金が約9割であり、これは中国側にとっては日本の政府と企業による投資活動と認識されうる。援助資金の中で借金が半分以上なのは先進国の中で日本のみであり、他国のODAでは無償資金が主であることも日本の一般国民の間では知られていない。毎年、1人あたりやGDPあたりというODAの指標では先進国の中で常に中位および下位に属しており、借金を無償資金分に換算すれば日本のODA総額は必ずしも世界一ではない。

このような誤解や認識不足のもとに

日本の対中ODAおよびODA全体の環境シフトという政策決定がなされているのが現実だ。

では、このようなODAをどのように使うべきか。

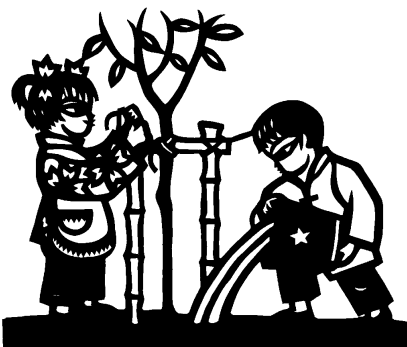
日本の外交方針としてのアジア地域重視を前提とした場合、長期目標としては、アジアでの共通理念の形成が考えられる。たとえば、グローバリゼーションの負の側面の解消、成熟した市民社会の創造、そしてアジア共同体の創生など、共通理念として日本がアジア諸国に提示しうるものはたくさんある。そして理想的には、このような理念を具体化するための道具の1つとしてもODAが考えられるべきだ。

しかし残念ながら、アジア諸国と日本との間にはこのような崇高な共通理念の形成を日本が唱えられるほど信頼の醸成がなされていない。日本がそのような理念を提示しうる資格や能力をもつかどうかの問題もある。したがって、唯一日本に残された選択肢が「環境」という理念の提示だと思われる。

それであれば、逆に開き直って、たとえ誤解や認識不足に基づいた消去法的な選択の結果だとしても、このかすかなつながりを大切に育てていくしかない。環境という言葉自体は曖昧であり、共通理念としては不十分で心許ないものである。しかし曖昧だからこそ、政治的な意思や構想力次第では、平和と安定を目標とするアジア共同体の創生につながるような理念となりうる。今はその可能性にかけるしかないと思う。

ご寄付

富士ゼロックス端数倶楽部と富士ゼロックス株式会社から、緑の地球ネットワークの活動に対して、それぞれ20万円、合計40万円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。



黄土高原史話〈5〉

農耕へ、遅れてスタート

谷口 義介（摂南大学教授）

前回の拙文に対し、博雅の土よりご教示多々。

「二鍋頭」は60度以上。1瓶7元（100円弱）は貴い、自分は5元で買った」（或る北京通）

「杜牧の“杏花村”は山西省ではなく、安徽省の方の杏花村。彼は2年間そのあたりの地方官だった」（中国文学者）

「吉家庄遺跡は桑乾（干）河の右岸だが、懷仁県でなく、大同県に属するはず」（高見邦雄GEN事務局長）

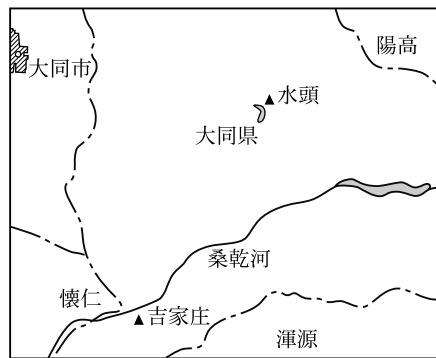
10年間、黄土高原で地の褻（ひだ）を這うように歩き廻ってきた高見氏、土の中にも眼がゆくらしく、あるとき地図で見て、訪ねたことがある由。

右図の如く、吉家庄遺跡は大同県の西南、吉家庄郷に属します。南に殿山を負い、北に桑乾河をひかえる緩やかな傾斜地。南北1000×東西750メートルの範囲に、たくさんの彩陶と少しの黒陶が散布。これを資料として吉家庄は、新石器時代の仰韶文化晩期と龍山

文化期に比定されています。

前回ふれたもう1ヶ所の水頭遺跡は、桑乾河より北へ10キロ、大同県東部の東北、西坪鎮の北500メートルに所在。北と東を大同火山群に囲まれた緩い傾斜地にあります。総面積100万平方メートル。吉家庄と同じく、仰韶晩期と龍山期という時期の異なる土器片を含んでいます（ちなみに仰韶晩期はB.C.3000年ごろ）

この2例のほか、大同盆地（桑乾河



吉家庄遺跡と水頭遺跡の位置

流域)では、雲崗附近・雲崗石窟対岸など、数ヶ所の新石器時代遺跡を数えるのみ。これは、旧石器時代の遺跡が少なくとも20有余存在するのと、大きな違いです。

つまり、このあたりの自然環境は、狩猟採集が基盤の旧石器人にはうってつけでも、農耕を主とする新石器時代人には不向きだったということ。そのため、中国北部で畑作農耕が始まった河北省・磁山、河南省・裴李崗のB.C.6000年よりはかなり遅れて、この地に新石器文化が進出したのでしょ

う。山西省に限っていえば、旧石器遺跡の2大密集地は汾河中・下流域と大同盆地で、石器の特徴からみた両者の文化には顕著な相異が見られます。独立した文化圏といってもよいほどです。ところが、つづく新石器時代になると、汾河周辺には仰韶・龍山文化の遺跡が爆発的(?)にふえるのに対し、大同盆地では寥々たるもの。しかも、前述の吉家庄・水頭両遺跡の仰韶文化は、汾河流域の影響を強く受けています。おそらくその文化は、汾河上流から五台山の西側をぐるっと廻り、桑乾河の上流に出て、大同盆地の中央部に入ってきたのでしょ

カササギの森にご協力ください!

大同はいま厳しい冬のまっただなかです。秋に陽高県から来てもらったベテランの農民たちのおかげでカササギの森の植樹準備はすっかりOK。大同事務所も春の植樹にむけてはりきっていることでしょう。

カササギの森は、みなさんの資金で

建設します。1haあたりの費用5万円（管理費を含む）を1口とします。

ご協力いただいた方には、協力者証をお送りしています。また、現地の記念プレートにお名前を刻んで残すほか、5年間、成育状況を写真で報告します。みなさんのご協力をお願いいたします。

橋本紘二さん写真集

『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』

農業・農村を撮りつづけている写真家、橋本紘二さんが大同に通ってまとめた写真集です。黄土高原の厳しい自然環境、農民の生活、そしてGENの緑化協力のようなすが伝わってきます。

★写真集『中国黄土高原～砂漠化する

大地と人びと』

写真・文 = 橋本紘二 / 東方出版 / A4版・208ページ / 6,000円 + 税
緑の地球ネットワークでも扱っています。特別価格（送料込み）6,000円。お申し込みはGEN事務所まで。

箕面山仕事体験報告

11月10日、特定非営利活動法人日本森林ボランティア協会の里山保全活動にまぜていただき、箕面の勝尾寺裏の国有林で山仕事を体験してきました。

GENからの参加者は16名。同協会の16名の方々にご指導いただき、スギ・ヒノキの間伐と間伐材をつかった遊歩道整備に汗を流しました。木の杭を大きな木槌で打ち込むのは、当たり前そなったり杭が斜めに入ったり、慣れないと大変です。作業後、まっすぐに高くのびた木々をゆらして吹く風がここちよく感じられました。

同協会は大阪周辺にいくつかのフィールドを持ち、週末ごとに山の手入れにかよっておられるとか。機会があればまたごいっしょさせていただきたいと思います。（東川）



水に学び、水と生きる

21世紀の川とのつきあい方

ダムを拒否した村、受け入れた村それぞれから村長を招きます。

日時：1月26日(土)10時30分～16時

場所：同志社大学今出川キャンパス 講武館1階105教室(京都地下鉄「今出川」駅すぐ)

資料代：一般1,000円、学生500円

【基調講演】10時30分～

宮村忠さん(関東学院大学教授)

【パネルディスカッション】13時～

藤田恵さん(徳島県木頭村元村長)

大谷一二さん(奈良県川上村村長)

国土交通省から(交渉中)

問合せ：APECモニターNGOネットワーク(TEL/FAX 06-4800-0888(火、金曜日13時～17時) e-mail: apec-ngo@mx.mesh.ne.jp)

または世界水フォーラム市民ネットワーク(TEL/FAX 075-381-7848(月、水、金曜日13時～17時) e-mail: water_ngo@yahoo.co.jp)

第7回 森林と市民を結ぶ 全国の集い

日時：2月9日14時～2月11日15時

場所：広島県東広島市周辺

【2月9日(土)】14時～17時

開会式・全体の集い(無料)

・東広島市中央公民館

基調講演「新世紀 森林づくりへの期待」川口順子さん(環境大臣)

パネルディスカッション「新世紀 森林づくり・地域づくり・人づくり ～つないでみると見える環～」

【2月10日(日)】9時30分～17時

分科会・ワークショップ(有料)

・西条グランドホテル・他

アカマツ林考 森林づくり、地域づくり 山づくり、水づくり、酒づくり

森林づくり、人づくり 森林づくり、海づくり 自立と連帯の森林づくり

森林づくり基礎講座 林業としての森林づくり 森林づくり、家づくり

【2月11日(祝)】

まとめの集い・閉会式 9時30分～11時45分

・西条グランドホテル

エクスカーション・西条酒蔵めぐり

13時～15時

・西条町酒蔵通り

申込み締切り：1月25日

申込み・問合せ：第7回森林と市民を結ぶ全国の集い実行委員会(〒

730-0041広島市中区小町2-28-703 富士パブリックス内 TEL. 082-248-3567 FAX. 082-248-3586 e-mail: morinotudoi@k8.dion.ne.jp URL http://www.h2.dion.ne.jp/~mori2002)

宿泊手配有。申込み方法・費用など詳細は事務局にお問い合わせください。

森林講座・冬の編

実際に森林作業を体験し、森の中を歩いてみて、近年忘れられた森の文化を現在の私たちの暮らしにどう活用することができるか考えてみませんか。

日時：3月9日(土)9時30分～10日(日)14時30分

場所：兵庫県水上郡市島町妙高山及び周辺の山林

宿舎：市島町立神池寺会館

参加費：8,400円(宿泊費、食費、保険等)

問合せ・申込み：神戸学生青年センター(〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 TEL. 078-851-2760 FAX. 078-821-5878 e-mail: green-w@po.hyogo-iic.ne.jp)

申込み方法：上記あて電話、FAX、メールで名前、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、性別、生年月日を明記のうえお申し込みください。